

6 京都議定書の目標達成に向けた地球温暖化対策の強化について

(環境省・経済産業省・資源エネルギー庁・国土交通省・林野庁)

地球温暖化対策につきましては、現在、国において「京都議定書目標達成計画」を見直し、京都議定書第一約束期間が始まる 2008 年度から必要な対策及び施策を講ずることとされています。しかしながら、2005 年度の我が国の温室効果ガス排出量は 13 億 6000 万トンと、基準年度の総排出量を 7.8%上回っており、京都議定書で約束された 6%の削減目標を達成するには極めて厳しい現状であります。

京都市におきましても、平成 17 年 4 月に全国で初めて施行した「京都市地球温暖化対策条例」において、2010 年までに市内の温室効果ガス排出量を 1990 年比で 10%削減することを目標に掲げ、京都議定書誕生の地にふさわしい地球温暖化対策を積極的に推進して参りました。しかし、民生・家庭部門及び業務部門からの二酸化炭素排出量は 2004 年時点で、20%以上増加しており、全体でも概ね横ばいで推移していることから、更に実効性のある対策が求められているところです。

来年から始まる京都議定書の第一約束期間を前に、京都議定書に定める排出削減目標の達成、更にはその先を見据えて、今まさに、国、地方を挙げて、更には世界が一つとなって、地球温暖化対策に取り組まなければなりません。

そこで、京都議定書誕生の地である京都市から、次の要望を行います。

要望事項

- 1 住宅の省エネ改修や太陽光発電設備等を導入した際、所得税等の減税措置を講じるなど、住宅の省エネ化を促進するための誘導策や支援の充実
- 2 中小企業が行う省エネ改修に対する財政措置の充実
- 3 地方公共団体が行う森林吸収源対策における財政措置の充実

主な要望先：環境省（地球環境局地球温暖化対策課）、経済産業省（産業技術環境局環境政策課）、資源エネルギー庁（省エネルギー対策課、新エネルギー対策課）、国土交通省（住宅局住宅政策課）、林野庁（農林整備部整備課、計画課）

京都市の担当課：総合企画局 地球温暖化対策室 企画担当課長 高畑重勝 TEL 075-211-9253
産業観光局 農林振興室 林業振興課長 高橋武博 TEL 075-222-3344

<参考>

1 京都市の温室効果ガスの排出状況

	1990(基準)年(万トン-CO ₂)	2004年(万トン-CO ₂)	増減(万トン-CO ₂)
産業部門	208(25.3%)	141(17.4%)	△67(32.2%減)
運輸部門	201(24.4%)	191(23.6%)	△10(5.0%減)
民生・家庭部門	174(21.1%)	211(26.0%)	+37(21.3%増)
民生・業務部門	168(20.4%)	205(25.3%)	+37(22.0%増)
その他	25.9(3.1%)	29.2(3.6%)	+3(12.7%増)
二酸化炭素 小計	776(94.3%)	778(96.0%)	+2(0.3%増)
その他のガス	47.3(5.7%)	31.9(3.9%)	△15(32.6%減)
温室効果ガス総計	823(100%)	810(100%)	△13(1.6%減)

注 括弧内は総排出量に対する割合であり、四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

注 2 増減欄の括弧内は基準年に対する増減率である。

2 太陽光発電設置助成件数

年度	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	4 年通算	年平均
助成金交付 決定件数	173 件	155 件	172 件	224 件	724 件	181 件
助成金交付 総額	24,269 千円	21,999 千円	23,887 千円	30,809 千円	100,964 千円	25,241 千円
出力合計 (交付決定分)	576 kW	527 kW	581 kW	740 kW	2,424 kW	606 kW
単年度CO ₂ 削減効果*	約 217 トン	約 199 トン	約 220 トン	約 280 トン	約 916 トン	約 229 トン
単年度累積 CO ₂ 削減効果	約 217 トン	約 416 トン	約 636 トン	約 916 トン		

*CO₂削減効果(計算式)

＝出力合計(kW)×①年間発電量(kWh/kW/年)×②電気の排出係数(kg-CO₂/kWh)÷1,000

①年間発電量：1,000 kWh/年(太陽電池アレイ出力1kW当たりの年間発電量)

②電気の排出係数：0.378 kg-CO₂/kWh(京都市の特定事業者排出量削減指針別表第1に掲げる係数)

3 KES 認証取得(保有)の状況

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
ステップ1	153	206	269	365	555(339)
ステップ2	50	85	116	215	280(98)
合 計	203	291	385	580	835(437)

* KES とは、京都発の環境マネジメントシステムであり、中小企業の環境経営の取組を促進するため、ISO14001 の趣旨を活かし、取組内容をより分かりやすく、かつ、容易にしたものである。
ステップ 1：環境問題の取組を始めた段階、ステップ 2：ISO14001 の認証取得を目的に取り組む段階

* 括弧内は、京都市内の取得(保有)件数である。

4 京都市における森林吸収量

京都市地球温暖化対策計画では、森林吸収量として約 12 万トン算入することを目標としているが(市内の森林面積 6.1 万 ha のうち、2010 年には約 1.9 万 ha の育成林が吸収源の対象になると想定)、国の算定方法の見直しを考慮すると 10.6 万トンとなり、計画に掲げる目標に 1.4 万トン不足している。